

中野雅司さんインタビュー



中野雅司さんとは偶然にフェイスブックで知り合い、1月の「おおさか自治体学校」でお会いした。中野さんの「民間経営者から見た大阪府政・大阪市政」の報告に興味をもった。直接お話ししたいと思い、中野さんが代表取締役の浪速産業株式会社を訪ねた。地下鉄天満橋駅から谷町筋を南に歩いた。どこか見覚えのあるビルの9階が、中野さんのオフィスだった。数年前に、甥っ子の結婚式がこのビルのレストランであった。まさか中野さんのビルとは本当にびっくり。なんだか「縁」のようなものを感じた。2時間にわたる中野さんへのロングインタビューであり、記憶を記録するために、とくに印象に残ったことを書き留めておきたい。

今のように政治に関心を持つようになったのは、10年前に橋下徹氏が大阪府知事になった頃。強権的な維新政治への怒りからだ。「大阪都構想」住民投票のあと、「大阪を知り・考える市民の会」を立ち上げ、その世話人をしている。会では学習会を定期的で開催している。中野さんの名刺には、大阪メンズアパレル工業組合と谷町既製服協同組合の理事長、そして大阪卸商連合会と大阪紳士服近代化協同組合の理事の肩書きもある。大阪で生まれ育ち、アパレルから不動産まで手がける三代目の商売人。「公益資本主義」に関心があり、企業も自分たちの利益にのみ固執するのではなく、社会の一員であるという自覚のもとに企業活動を行うべき。昔の大阪の企業は、そういう企業ばかりだった。大阪の企業が減っているのが問題だ。大阪の経済をどう再生していくか。大阪の消費を活発にすること、そのためにも「緊縮財政」を卒業して、住民の所得を上げていく政策をとるべき。既存企業の事業承継時に起業する「後継ベンチャー」も積極的に支援していかなくては。大阪は信用保証協会の「府市統合」により、全国レベルで見ても小さくなった中小企業への信用枠供与を増大させる施策が必要だ。

ここ数年、外国人観光客が急増しているのは、維新が推進してきた「民泊」の影響も大きいのではないか。空きビル、貸しビルが、どんどん「民泊」に使われている。観光やイベント頼みの経済は長続きしない。特別区や総合区など「大阪都構想」絡みの相変わらずの制度いじりでなく、長期の視野に立つ経済政策、まちづくりを考えていくべき。足もとから住民自治、住民意識の高揚をどう築いていくか。そのためにも「大阪を知り・考える」学習と討論が求められているのではないか。

このほか障害者や大阪の教育問題、「カジノ万博」などについても示唆に富んだ指摘があり、レポートなどで紹介していきたい。中野さんへのロングインタビューにより、「大阪問題」への関心とやる気が高まった。心から感謝したい。

(2018年2月22日)